

全国特別支援学校病弱教育校長会

会報

第63号

発行者 全国特別支援学校病弱教育校長会
千葉県立仁戸名特別支援学校長
日下 奈緒美
編集 千葉県立四街道特別支援学校長
鎌田 絵里
令和8年3月24日発行

ごあいさつ

全国特別支援学校病弱教育校長会会長
千葉県立仁戸名特別支援学校長 日下 奈緒美

全特長大会をはじめ、参集での総会等が再開して3年を経ました。以前のような参集での協議会が充実してきた感があります。“以前のように”と言っても、単にもとに戻るのはない、進化が期待されています。多岐にコンディションが変容し、世情のニーズも多様化・変化しております。病弱教育校は、特に医療関係の影響を受けることから、複雑な問題を抱えることも少なくないと思います。各校の様々な難題課題にご尽力されておられる全病長会の皆様には、日頃より、全病長へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年度も、総会と第1回研究協議会をオリセンで開催、多くの皆様にご参加くださり、対面ならではの情報交換の機会として充実した時間とすることができました。第2回研究協議会は全病連大会に合わせてオンライン開催、今後も開催方法は検討してまいります。

子供たちの活躍も、素晴らしいものがありました。第32回全国特別支援学校文化祭で、文部科学大臣賞に、福岡県立古賀特別支援学校と群馬県立赤城特別支援学校が選ばれました。また、病弱教育校長会賞には、福井県立福井東特別支援学校、長崎県立桜が丘特別支援学校、福島県立須賀川特別支援学校（2作品）の4作品が選ばれました。おめでとうございます。

病弱教育は、子供たちの教育保障の重要な学校現場としての役割を果たしています。学校教育のスタイルが変化しつつある現在、病弱教育校の担う役割は大きく期待されています。

今後とも、病弱教育の発展にご尽力いただけますようお願い申し上げます。

活動報告

令和7年度全国特別支援学校長研究大会・総会

令和7年度全国特別支援学校長研究大会及び総会が6月26日（木）・27日（金）の2日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。

研究大会の主題は「令和の日本型学校教育」の構築を目指した特別支援学校の経営の在り方～全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進～です。

初日の総会では、文部科学大臣政務官 赤松 健 様、全国都道府県教育長協議会会長代理として、全国都道府県教育委員会連合会事務局長 滝沢 毅 様よりご祝辞をいただいたほか、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 生方 裕 様による行政説明、東京学芸大学教育学部教授 高橋 純 様による「デジタル学習基盤を活かした今後の学校経営」の講演が行われました。

2日目は、5障害種ごとの総会及び研究協議会の後、「危機管理・防災教育」「学習指導要領を具現化するための教育課程の改善」「インクルーシブ教育の構築」「自立と社会参加の充実」「特別支援学校における地域と連携した人材活用の推進」の5つのテーマによる分科会が行われ、経営課題について研究協議会が行われました。

本研究大会を通して、特別支援学校を取り巻く課題や学校経営の在り方について、理解を深める貴重な機会となりました。

令和7年度全国特別支援学校病弱教育校長会総会

令和7年度全国特別支援学校病弱教育校長会第1回研究協議会

国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた令和7年度全国特別支援学校校長研究大会と合わせ参集型とし、6月27日（金）に開催しました。

総会では、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 深草 瑞世 様に来賓の御挨拶をいただきました。

研究協議会では、青森県立青森若葉養護学校校長 蛭名 文博 様より『「体づくり運動」における見方・考え方を働かせた授業づくり』の実践報告を、滋賀県立守山養護学校校長 福井 亜由美 様より「総合的な学習の時間における実践について」の報告をいただきました。



また、午後の研究協議会では、国立特別支援教育総合研究所統括研究員 大崎 博史 様より情報提供をいただき、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 深草 瑞世 様に行政説明及び指導講評をいただきました。

令和7年度全国特別支援学校病弱教育校長会第2回研究協議会

第2回研究協議会は、8月4日（月）午後、埼玉県立けやき特別支援学校を拠点としたオンラインでの開催となりました。文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の 深草 瑞世 様を指導助言者としてお迎えし、ICT機器活用（2グループ）、高校生支援、復学支援、センター的機能、自立活動の5分科会6グループに分かれ、オンラインで協議を行いました。また、国立特別支援教育総合研究所統括研究員 土屋 忠之 様からも情報提供をしていただきました。



同じ障害種の特別支援学校の校長が集まり、学校運営に関する課題や取組について意見交換や情報共有を行い、相互理解を深める有意義な研修となりました。

『全病長会報』について

これまで、全国特別支援学校病弱教育校長会の会報につきましては、年度末に事務教担当者より各所属宛にメールで送付する形で配付し、会員の皆様に御覧いただいて参りました。このたび、より多くの皆様に広く御高覧いただけるよう全病長のホームページにおいても会報を閲覧できるようにいたしました。

会報には研究協議会の様子やロボットプログラミング選手権大会の様子などを掲載しています。本会の取組について御理解を深めていただく一助となれば幸いに存じます。

(全病長 HP)

http://www.zentoku.jp/dantai/jyaku/index_book.html

令和8年度の予定

第1回 理事評議員会

令和8年5月12日(月)10:00~12:00

総会

令和8年6月26日(金) 9:00~11:50

第1回研究協議会

令和8年6月26日(金)13:00~15:00

第2回研究協議会

令和8年8月 4日(月)13:00~17:00

Web 開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

第2回理事評議員会

令和9年1月20日(水)10:00~12:00

第8回ロボットプログラミング選手権大会2026

令和9年1月下旬~2月上旬 10:00~14:30

Web 開催(埼玉県立けやき特別支援学校)

ロボットプログラミング選手権大会2025（病弱教育部門）について

埼玉県立けやき特別支援学校

2019年度に始まったロボットプログラミング選手権（病弱教育部門）は、今年度で7回目を迎えました。全国から46校79チームが参加し、9月に開催された関東甲信越地区大会を皮切りに、全国5地区の予選大会を勝ち進んだ21チームが、全国大会で白熱した戦いが繰り広げられました。全国大会では参加校のチーム紹介動画の上映や後援企業様による試合の解説、各出場校の推薦プログラム同士で対戦するエキシビジョンマッチ等も行われ、より一層盛り上がりを見せました。

関東甲信越地区大会 令和7年 9月26日 事務局：埼玉県立けやき特別支援学校

今年度は14校22チームが参加しました。

どの試合でも白熱したゲームが繰り広げられました。

関東甲信越地区からは、上位6チームが全国大会への出場権を手に入れました。千葉県立四街道特別支援学校〔2チーム〕、群馬県立赤城特別支援学校、東京都立墨東特別支援学校いるか分教室、埼玉県立けやき特別支援学校、埼玉県立蓮田特別支援学校。

立正大学、埼玉大学の学生による大会進行により、より一層盛り上がりのある大会となりました。多くのご参加、ご協力ありがとうございました。



中国四国地区大会 令和7年12月23日 事務局：山口県立豊浦総合支援学校

今年度は7校12チームが参加しました。初出場のチームも連続出場のチームも、一丸となって大会に挑みました。学校紹介では、各校の特徴や意気込みを聞くことができ、さらに休憩時間には本校生徒が作成したオリジナルクイズを行い、学校間の交流を深めることができました。参加校の皆様のご協力のおかげで、温かい雰囲気のある大会となりました。本当にありがとうございました。

優勝 「まんぼう」 徳島県立鴨島支援学校

2位 「タイム」 山口県立豊浦総合支援学校

3位 「土佐ノ国」 高知県立高知江の口特別支援学校



北海道東北地区大会 令和7年12月11日 事務局：山形県立山形養護学校

北海道・東北地区大会では、今年度、5校10チームが参加しました。大会の結果、優勝した北海道手稲養護学校三角山分校「三角山B」、準優勝した青森県立青森若葉養護学校「若葉の知」、3位の青森県立青森若葉養護学校「若葉三兄弟ルオ」の3チームが全国大会出場を決めました。2校とも昨年度に引き続いての全国大会出場となり、安定した強さを見せていました。チーム紹介では、それぞれの個性あふれる発表が行われ、対戦前から会場は大いに盛り上がりました。

参加校の皆様、ご協力ありがとうございました。



近畿東海北陸地区大会 令和7年11月19日 事務局：和歌山県立みはま支援学校

近畿東海北陸地区大会では、10校19チームがエントリーしました。どの学校もがっぷり組み合っって膠着状態になる場面も多く、手に汗握る熱戦が続きました。県外の参加校とはリモートでつなぎ、競技を通して交流を深めることができました。

学校紹介やチームのアピール時間では、各チームの意気込みや応援の声など、熱い思いが存分に伝わる大会となりました。参加校の皆様のおかげで、最後まで大会運営することができました。

ご協力ありがとうございました。



九州地区大会 令和7年12月2日 事務局：宮崎県立赤江まつばら支援学校

今年度の九州地区大会は10校16チームが参加し、全国大会への切符をかけて熱戦を繰り広げました。

各校の児童生徒が試行錯誤を重ねて作り上げたプログラムは、随所で手に汗握る攻防を見せ、オンラインでも大きな熱気が伝わってきました。一人一人の思いが詰まったプログラミングがぶつかり合う、実りある大会となりました。

多くのご参加とご協力、ありがとうございました。

【結果】優勝：長崎県立桜が丘特別支援学校

準優勝：福岡県立古賀特別支援学校、

3・4位：佐賀県立中原特別支援学校（4チーム全国大会出場）



全国大会 令和8年2月10日 事務局：埼玉県立けやき特別支援学校

各地区予選を勝ち抜いてきた21チームによる、白熱した試合が行われました。参加校のチームの紹介動画では個性や工夫が見られ、各チームの意気込みが伝わってきて楽しく視聴できました。

出場校のチームの推薦プログラム同士で対戦するエキシビジョンマッチでは、本戦同様に白熱したゲームとなり、交流を深めることができました。

優勝：埼玉県立けやき特別支援学校、「じゃがりこ」

準優勝：静岡県立天竜特別支援学校、「鉄道オタク」

第3位：千葉県立四街道特別支援学校、「チーム友達バナナ（改）」

特別賞：大阪府立刀根山支援学校、「ロボプロマスター」

技術賞：千葉県立四街道特別支援学校、「チーム1・2年生」

技術賞：長崎県立桜が丘特別支援学校、「桜Bチーム」

